

地域密着型サービス運営推進会議 報告書

事業所名称 てのひらデイサービス
 サービスの種類 地域密着型通所介護
 会議開催日 令和7年9月24日（水） 14：00～
 開催場所 てのひらデイサービス和室
 出席者

事業所	2名	利用者	1名
利用者家族	1名	地域の方	1名
松江市職員	1名	地域包括支援センター	1名
		その他	0名

議事・議題

1・利用者状況

定員（18名）

登録人数 28名 （令和7年9月24日現在）

事業対象 2名 要支援 5名 要介護 21名

曜日別利用者数

日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
月2回1名	8名	9名	5名	3名	12名	8名

2・活動報告

- ・6月に利用者様と一緒に外食を行いました。皆様ご自分で選ばれ楽しめました。
 「次はここへ行きたいわ。」とリクエストしていただきました。
- ・利用者様にいろいろ教えていただきながら、くす玉を作ったり、ペーパークラフトをしたりしています。
- ・毎月研修を行っています。その他外部の研修にも参加させていただいています。
- ・10月には行政の担当者と連携を取り「てのひらカフェ」開催予定です
 ○今後の課題として利用者様に喜んでいただきたいため、ボランティアに声をかけたり外出レク、行事を行っていきたいと思っています。

3・意見交換・要望

- ・食事 栄養等考えて作って下さりありがたいです。

夕食と重ならないようにメニューが分かればと思います。

→メールなどを利用し伝えるようにしている。

- ・検食簿 写真が貼ってあり分かりやすいが、感想を書くのではなく、異物混入・異臭・異味などを書くようにするとよい。

→異物、異臭、異味などを書くようにした。

- ・季節のイベントをされていますか？されてなければ今後は行って行くようにする。

→ボランティアなどに声をかけたりし行って行くようにします。

- ・デイまでのアクセスが良いといいですね。

→看板を立てるなど考えてはいるが出来ていないのが現状です。

- ・地域で行うカフェや食堂などの情報を教えていただく。

→どのように行っているのか話を聞きに行こうと考えています。

4・ヒヤリハット・事故報告書

- ・靴の間違い（帰られるときに自分のではないと言われる）

→来所されて時に名前を付け（クリップではさむ）分かるようにしました。

- ・浴槽に入られる時に滑られる。

→滑り止めの上に足を置かれる様に声掛けをする。滑り止めの位置を確認する。

今後も気付きを持ち利用者様の観察、物品の位置の把握をする。

5・次回開催予定

令和8年3月予定

※事業所確認欄

☐ 活動報告についての評価を受けることができたか	
☐ 要望・助言等を受ける機会を設けたか	

身体拘束

●何故身体拘束をしてはいけないのか。

身体拘束とは

身体拘束その他利用者様の行動を制限する行為。

身体拘束の具体例

1. 徘徊しないように、車いすや椅子などに体幹や四肢を紐等で縛る。
2. 転落や他人への迷惑行為を防ぐために、ベッドや体幹や四肢を紐等で縛る。
3. 自分で降りられないように、ベッド柵で囲む。
4. 点滴や経管栄養チューブを抜かないように、四肢を紐等で縛る。
5. 皮膚をかきむしらないように、手指の機能を制限するミトン型の手袋等をつける。
6. 車椅子や椅子からずり落ちたり、立ち上がったたりしないように、Y字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。
7. 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるような椅子をしようする。
8. 脱衣やオムツ外しを制限するために、介護衣（つなぎ服）を着せる。
9. 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。
10. 自分の意思で開ける事の出来ない居室等に隔離する。

身体拘束や行動を制限する行為の弊害

○ 身体的弊害

長時間拘束される事で運動不足になり、関節の拘縮や筋力低下を招く

・褥瘡の発生 ・内臓機能、抵抗力の低下 ・事故のリスク拡大

○ 精神的弊害

人間としての尊厳の侵害、利用者様の人間としての尊厳を著しく損なう

・大きな精神的苦痛 ・認知症の進行やせん妄を引き起こす

○ 社会的弊害

拘束されている姿を家族が見た時に、後悔や罪悪感を抱き、大きな精神的苦痛を感じる事がある

・介護施設への不信感 ・介護職員の士気低下

- ・身体拘束をせずに介護サービスを提供できる事業所は数多く存在する。
- ・身体拘束をしなくても利用者様の安全を確保できる介護サービスの提供方法を考え、利用者様の安心、安全な生活を支援する。